



京都 YWCA

1 2018

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

パレスチナ・オリーブ収穫プログラムに参加して

パレスチナ YWCA と東エルサレム YMCA の合同アクションのために設置された JAI (Joint Advocacy Initiative) のオリーブ収穫プログラムに日本 YWCA を通じて参加した (10 月 14 日～ 23 日)。

収穫作業に参加する意味

イスラエル占領地とパレスチナの間には壁と鉄条網があり、この周りにオリーブ畑を持っているパレスチナ人家族と一緒にオリーブ収穫を行った。世界中から集まった 70 人の参加者が一緒に作業を行うことは、頻繁に攻撃されて土地とオリーブを奪われてしまうパレスチナの人々の安全と権利を表明し、それを守るという意味がある。私たちがオリーブを収穫していた場所の近くに銃を持ったイスラエル人が来て収穫したオリーブを奪って帰ったという BBC のニュースを知り、深刻なパレスチナ事情を知った。不思議なことは、同じ土地に立っているのに、パレスチナ人と外国人は別の法律に従うということが抵抗なく受け入れられていること、そして、どの収穫場所でも 20 メートル先ではイスラエルの建築工事が行われていることであった。

パレスチナ難民と支援状況

1949 年にヨルダン川西岸地区 (the West Bank) に設置されたデヘイシャ難民キャンプ (Dheisheh Refugee Camp) を 2 回訪問した。この地域の人々はテントから移され、コンクリートの箱のような家で生活をしてきたが、狭い空間では家族で暮らすことが出来ず、2 階、3 階に増築して住んでいた。国連に難民登録されていて、いつか故郷に帰るのを待っているようだ。

地区内には外国からの支援で設置されたイブダ文化センター (IBDAA Cultural Center) があり、子どもたちのグループカウンセリングと文化・スポーツ活動が地元 NGO により運営されている。すぐ隣に JICA の援助によって建てられた医療センターがあったが、この地域でただ一つの医療施設だと聞いて驚いた。パレスチナには病院が少なく、医療を受けることが難しいようだ。ヘブロンとエルサレムにも行き、パレスチナの人々から話を聞いた。エリコ (Jericho) の難民キャンプ地域ではパレスチナ YWCA が運営する保育園と女性センターを訪問した。日本 YWCA の援助で建てた保育園だが今は交流がないということに寂しさを感じた。また女性センターでは料理をつくり外向けに販売をしていて、京都 YWCA のことを思い出した。

パレスチナに来て見て (Come & See)

ベツレヘムにはイエスの誕生を記念する教会 (降誕教会 Church of the Nativity) があり、多くの観光客が訪れる場所でもある。しかし、観光情報がイスラエル中心になっていて、パレスチナには利益が入らない構造があり、経済状態が段々悪くなっているようだ。パレスチナの人々は、多くの人々に「来て見て (Come & See)」と呼びかけている。人々がパレスチナに来てくれること、パレスチナを忘れず思ってくれていることに感謝し、その思いをアクションで表すことを願っていた。

パレスチナから持ち帰った、オリーブの木に彫刻された蠟燭台と、パレスチナの平和を願う刺繍製品を京都 YWCA ロビーの十字架の隣に置いた。京都 YWCA を訪れる折にはご覧ください。そして、可能なら京都 YWCA ロビーで販売するパレスチナ商品を買ったり、日本 YWCA の「Keep Hope Alive オリーブの木キャンペーン」へのご寄付をお願いします。今だからこそパレスチナを忘れずアクションを起こしましょう。

(張善花)



オリーブの収穫風景



パレスチナから持ち帰った品々とロビー販売商品

「福島を感じる旅」報告

10月28～30日、「福島を感じる旅」に5名で参加しました。

まず福島YWCAの方に市内を案内していただきました。福島市は盆地であり、中心にある^{しのぶやま}信夫山は放射能の汚染度が高く、ふもとには放射性廃棄物のフレコンバッグの大型仮置き場がありました。

次に、震災後、日本YWCAが作った活動拠点「カーロふくしま」で福島YWCAの皆さんと交流しました。

保養についてはお母さんがたから問い合わせがありますが、京都YWCAで実施した「京都で進学を考えるプログラム」については、初めてお父さんから問い合わせがあり、驚いたそうです。続けてほしいという声がありました。また、近くの人には話せないことも遠くの知らない人には話せることもあるので、京都からの支援は嬉しく、福島のことを忘れないで訪問してくれて、感謝していると話されました。そして、震災後も変わらない福島の自然を見てほしいと言われました。

翌日は、許可書なしで通行できるようになった帰還困難地域へ車を走らせました。緑の生い茂る山中では放射線を計測するガイガーカウンターの数値が高くなりました。青空が広がるところでは数値が下がり、トンネルの中ではさらにぐんと下がりました。美しい紅葉の自然は、人間が作り出した多

量の見えない放射能を黙って背負ってくれていました。

それから、外国にルーツを持つ移住女性の支援と多文化共生社会の形成に取り組んでいる「EIWAN」（福島移住女性支援ネットワーク）を訪問しました。EIWANで企画する保養プログラムには、参加する子どもがいなくなっているようです。子どもの6年の成長は早いからこそ、支援が必要なことを感じました。

小水力発電と地熱のバイナリー発電に取り組んできた土湯温泉も訪問しました。震災時、温泉をポンプアップする電気が使えなかったため被災者を受け入れできなかったことを悔やまれたそうです。地元の方の熱い思いを聞きながら、震災後の福島にたくましい人たちがいることを心強く感じました。福島県は2040年までに100%再生可能エネルギーに転換することを宣言しています。

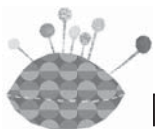
今回の旅や、報告会での意見交換で得られたことを大切にしながら、今後の活動を考えていきたいと思っています。

（松田千治）



「カーロふくしま」にて、福島YWCAの皆さんと

シリーズ やっています！こんなこと④



きものリフォーム

「古い着物を蘇らせる」知恵と工夫を寄せ合って、楽しんでいます。

毎月第4火曜日、10時半から12時まで、YWCAの一部屋で、着物リフォームの広場を開いています（8月・12月はお休みです）。10年ほど前に始めたころには、こんなに長く続けることになるとは予想もしませんでした。私は洋裁を習ったわけでもないので、来てくださる方に実技をお教えできるわけではありません。参加者が自分で作ったものをいろいろ持ち寄って、その型紙を写し合ったり、着物を持ってきて、これならどんなものを作るのがいいとか話し合ったり。まさにウン人寄れば文殊の知恵。また、他の方の作品を見ることで大いに創作意欲が刺激されます。そうかと思えば、「今は創作意欲ゼロだけど、みんなとおしゃべりするのが楽しいから」と言って来られる方もあります。

せっかくのすばらしい着物をタンスの肥やしにしたり処分をしたりするのは、余りにもったいない。ご両親の残されたものがあれば是非再生して活かしてあげましょう。

参加費1回500円、出入り自由、すること自由——のゆるーい集まりがいいのかもしれません。リフォームに関する教え合いの合間のおしゃべりは、日々の生活の知恵、介護の経験、病気の経験にまで及びます。たまにはメンバーの1人が先生になって、パッチワークのかばんを作ったりもします。

まずは「様子見に」、というのも大いに歓迎します。京都YWCAの受付に電話を1本を入れてから、是非一度お越しください。

（宮川信子）



皆で和気あいあいと。
笑顔で手と口を動かします



リフォームされた作品

YMCA/YWCA 合同祈禱週集会報告

インドから学ぶ ～子どもたち一人ひとりを育むために～

11月25日、この日、長年インドのダリット解放に尽力されてきたムルガン・カリラトナム（通称カリ）さんにお話を伺った。

インドに、ヒन्दゥー教の身分制度であるカースト制の外に置かれた「不可触民＝ダリット」と呼ばれる人たちがいることをご存じだろうか。「抑圧された者」「碎かれた者」という意味も併せ持つダリットだが、カリさん自身もダリットとして苦しんでこられた1人である。ダリットとして生きることはどれ程険しいものであったか、幼少期のエピソードも交えながらお話をしてくださった。

ダリットの多くは極貧の生活を強いられている。カリさんが育った村では、60家族のダリットがおり、人々やその子どもたちは地主の所有する農地で重労働を強いられ、電気も水道もない小屋で暮らす生活であった。学校では、カーストの地位が高い子どもがカリさんの身体に触った手を洗ったり、教師までもがダリットの子どもにだけは容赦のない体罰を加えたりするなど、あからさまな差別がごく当然であるかのように行われてきたという。

カリさんのお話の後で行われた班での感想共有では、「知

らない事だらけで、ただただショックを受けた」「ダリットの人口は約2億人、考えてみれば日本の総人口より多い。その数に圧倒された」「京都市内においても、被差別部落の問題が解消されていない。インドの社会問題と通ずるものを感じた」等、さかんに意見が飛び交った。

さて、最後に「自分に何ができるのか」という問いについても意見共有をした。しかし、与えられた時間内では、あまりに重く長いインドの差別の歴史やダリットの人々が経験してきた痛みを捉えきけることは、まだ自分にはできず、何の意見も出せなかった。その場で安易に意見を出すことは失礼だとも感じた。

このことは考え続けなければいけない問題である。遠い国の差別の話ではなく、私たちが考え、行動すべき事が必ずあるはずであるから。

（築瀬仁志）



ダリット解放運動について語るカリさん



クリスマス集会 ～私たち一人ひとりのうちにある光～

誰にも開かれているYWCAですが、クリスマスと復活祭の時期には集会を持ち、活動基盤であるキリスト教の精神を大切にしています。今年は12月9日、日本キリスト教団石山教会の須賀工^{すかたくみ}牧師をお迎えし、クリスマス集会を行いました。

会の前半は礼拝です。2歳のお子さんの父親であり、教会付属の石山教会清和幼稚園に通う子どもたちの「お父さん」でもある須賀牧師から、「裁くためではなく、救うために」というメッセージをいただきました。イエス様降誕の場所は馬小屋ですが、当時は「小屋」ではなく灯のない「洞窟」でした。神の御子であり、この世の救い主が、なぜそのような場所に生まれたのでしょうか。

私たちは、一般的な罪だけでなく、無意識的に受容しがたいものを拒絶し傷つける「罪」を犯していること。罪人＝裁かれるものと考えられていること。ともすれば罪や裁きにより、闇に包まれてしまいそうになる、この世に生きる私たち一人ひとりの心を、独り子であるイエス様を通じて、救いと燈火を与えてくださった神様の愛を知りました。イエス様がお生まれになった灯のない洞窟は、この世に生きる人たちの心を表すものだったのです。

礼拝の後には、16年に亘り^{わた}文庫活動を続けている京都YWCA親子ライブラリーのお話会です。最初に降誕劇が立絵（ペープサート）で演じられました。ピアノ、鉄琴、リコーダーを用い、参加者の讃美歌も加わり、クリスマスの物語を楽しみました。続いて、絵本『しあわせなもみの木』をライブラリーメンバーが翻案したパントマイム付きの群読です。原作の美しい絵がプロジェクターで映し出され、その前での大熱演に参加者の眼はくぎ付けでした。

今年のクリスマス集会は、京都YWCAらしく子どもたちも、かつて子どもであったおとなたちも、会員手作りのクリスマスのお菓子シュトレンを片手にクリスマスを祝う温かなひと時となりました。（別所加恵）



イエス様の生誕の意味をわかりやすく教えてくださいました



親子ライブラリーの熱演に子どもたちの眼もくぎ付け

今後のプログラム

◎ 2.11 集会

- 日 時：2018年2月6日（火）18:30～20:30
 ■場 所：京都YWCAホール
 ■テーマ：天皇制と女性
 ■講 師：堀江有里さん（日本キリスト教団なか伝道所牧師）
 ■参加費：500円（飲み物付き）

◎ピーター・バラカン DJ ライブ in Kyoto ～ブルーズって何だ？～

- 日 時：2018年2月24日（土）14:00～16:00（開場13:30）
 ■場 所：京都YWCAホール
 ■参加費：2500円（クッキー・紅茶付き）
 ■定 員：80名（要申込）

◎第96回定期会員集会

- 日 時：2018年3月3日（土）13:00～16:30
 ■場 所：京都YWCAホール
 ■主 題：「平和を実現する人々は、幸いである」（マタイによる福音書5章9節）

京都YWCA チャリティコンサート

～キッサコ～あなたへの伝言～



2018年3月31日（土）14:00～16:00（開場13:00）

同志社大学寒梅館ハーディーホール

一般：2,500円

学生・無業者（30歳以下）・障がい者手帳をお持ちの方：1,500円

小学生：1,000円

※チケットは京都YWCAまで

キッサコとは？

2003年京都で結成。僧侶でもある薬師寺寛邦（AG&Vo、愛媛県今治市出身）と、山元サトシ（AG&Vo、京都市出身）からなるフォークボーカルデュオ。グループ名の由来は“お茶でもどうぞ”の意味を持つ禅語「喫茶去」から。

ご寄付ありがとうございました。

2017年10月1日から11月30日 寄付者一覧
 （敬称略、順不同）

一般寄付

本田次男、森律子、梶川雅子、山本知恵、井上依子

各指定寄付

＊クラス事業委員会

安田順子

＊親・子育て支援活動委員会

室紀子、親子ライブラリー有志

＊多文化共生委員会

安藤いづみ、近藤玲子、青木信雄、石井ゆき、
 東九条・CAN フォーラム、
 日韓ユース交流プログラム有志、
 多文化共生委員会有志

＊平和・環境委員会

福島ツアー報告会参加者有志

＊クリスマスバザール

大島博子、高橋正子、神岡茂子、上村愈巳子、清水義、
 池上信子、宮武美知子、横川宏美、井上依子、
 （有）飯室商店、（有）プロジェN、（株）マイチケット、
 （株）安全農産供給センター、（株）田中工務店、
 （株）ティエムエス、西京都共同購入会、（株）山田松香木店

＊自立援助ホーム「カルーナ」（教育奨励金）

京都保護観察所有志

＊自立援助ホーム「カルーナ」後援会費・寄付

手島千景、榎本愛美、樋口久美子、都木かおり、
 平野富希、竹之下雅代、井上依子

＊賛助費

半田淳子、大島博子



PÂTISSERIE
 AU GRENIER D'OR

Maison fondée en 2001

KYOTO

仏蘭西菓子処

お菓子教室

パティスリー/サロンド・テ
 オ・グルニエ・ドール

Open/11:00a.m～7:30p.m
 定休日/毎週水曜日、火曜日・木曜日（不定休）

京都市中京区堺町通錦小路上ル 527-1
 Phone 075-213-7782 Fax 075-213-7783

11・12月／理事会報告

- 恒例の親子で楽しむ「あきまつり」開催（11月12日）。
- 保育園に関するプロジェクトチーム会合を開催し意見交換（11月18日）。
- 保育園開設について協議した結果、2019年4月に開園予定。
- 恒例のクリスマスバザールを開催（12月2日）。
- 小学生対象の冬休みプログラム「ガジュマルの樹」を実施（12月25～27日）。
- 「YWCA フェスタ in 京都」翌日（2018年5月21日）のオプションツアー1日コースと半日コースを企画、全国のYWCA会員向けに参加者募集開始。
- 新しい会員ハンドブック作成に向けてドラフトを準備し、内容を検討中。

KYOTO YWCA No.542

2018年1月号（1月1日発行）

発行人 上村愈巳子

発行所 公益財団法人京都YWCA

京都市上京区室町通水上ル

電 話 (075) 431-0351 FAX (075) 431-0352

e-mail office@kyoto.ywca.or.jp

U R L http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替 01080-9-1566

口座名義 (公財) 京都YWCA

定 価 50円